

## 春の訪れ

校長 清水 哲也

先月、ルーマニアを寒波が襲っている頃、道路わきの並木の枝先が氷に包まれ、綺麗に輝いていました。ルーマニアで数年過ごされている方も、このような姿は初めてと驚いていました。まるで高級食材のジュンサイのようで、とても不思議な光景でした。

弥生三月となり、季節は益々春めいてきました。冬枯れのヘラストラウ公園の木々が一斉に芽吹き、新緑の雑木林を散策するのが楽しみです。



春は、『光の春』⇒『音の春』⇒『気温の春』の順番でやってくるそうです。『光の春』この言葉は、旧ソビエト連邦で始まったようです。ロシアなど高緯度地方の冬は長く、春とはいっても気温は低いため人々は太陽の明るさで春を感じます。日本と比べて日脚の伸び方がけた違いに早いからです。

『音の春』雪崩の音、雪解水で増水した川の音、鳥の鳴き声で春を感じます。『気温の春』“暑さ寒さも彼岸まで”のたとえどおり、お彼岸を過ぎる頃からは気温も上昇し春の陽気が訪れます。

秋や冬と違い、「花粉症の人」以外で春が嫌いな人はいないのではないかと思います。希望の春を思いっきり謳歌したいものです。

学校は学年末を迎えましたが、1年間のまとめとして大切な時期でもあります。子供たちには授業中、集中力を切らさないように配慮し、1年間の総復習を確実に行って進級に向けた準備を進めてきました。記憶は必ずうすれていくものであり、学習内容の定着には確実な家庭学習が欠かせません。これからも家庭での計画的な過ごし方を考えさせていきたいと思えます。

子供たちによく言うことがあります。「テレビを見過ぎて」「スマホをやり過ぎて」「だらだらとすごし過ぎて」困った人はたくさんいます。しかし、「勉強し過ぎて、困った人はいません」「やった勉強は、決して無駄になりません」このことを粘り強く訴え続けていきたいと思えます。

3月15日（金）が本年度の最後の授業日となりました。多くの来賓の方々に参列いただき、修了式、卒業式、離任式を行いました。一時は児童生徒数がブカレスト日本人学校の歴史の中でも最少数の4人まで減少し厳しい状況が続きましたが、何とか乗り切ることができました。これまで保護者の皆様、日本人会の皆様、商工会の皆様から多大なご理解、ご支援をいただきましたことに心より御礼申し上げます。

来年度は4月10日（水）から始まります。新年度、在校生は全員が学校に残り、新しい児童生徒を加え10名でのスタートを予定しています。より一層、学校に活気が出て、充実した毎日になることを願っています。

来年度もブカレスト日本人学校をどうぞよろしくお願いいたします。